



さと美 —— 陶磁器・染織品

東南アジア紀行

2026年 7月18日[土] — 9月27日[日] 休館日／7月21日(火)

開館時間／9:00～17:00 (入館受付 16:30 まで)

観覧料／大人 210 円 高校生以下無料

主催／富山市教育委員会 (富山市佐藤記念美術館)

富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)

TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080



青花牡丹文盤 (部分) ベトナム 15 世紀／青磁刻花花文菱花盤 (部分) タイ 15 世紀／黒褐釉櫛目文盤口瓶 (部分) クメール 11～12 世紀／白釉緑絵花文盤 (部分) ミャンマー 15～16 世紀



さと美 — 陶磁器・染織品

東南アジア紀行



腰巻
スラウエシ島（トラジャ族）



鉄絵草花三魚文盤
タイ スコタイ 15世紀



灰釉褐彩象形壺
クメール 11～12世紀



青花唐草文瓶
ベトナム 15世紀



腰巻（男性祭事用）
スンバ島（レンデ村）



腰衣
チモール島東部（ロスパロス村）

2026年7月18日〔土〕—9月27日〔日〕

やきものの生産は、世界各地でおこなわれてきました。東南アジアにおいてもフィリピンやインドネシアなどの島嶼部では、古くから土器などがつくられてきました。一方で、釉薬のかかった「施釉陶」は、中国陶磁の影響を受けながら、インドシナ半島のベトナムやタイ、ミャンマーなど大陸部のいくつかの地域でつくられています。伝統と恵み豊かな自然のもとで育まれたそれらのやきものは、素朴で温かな魅力であふれています。

本展では、1世紀から3世紀・12～16世紀頃までのベトナム、13～16世紀のタイ、9～13世紀のカンボジア（クメール）などの東南アジア陶器を紹介します。なかでもベトナムやタイの陶器は、海上交易を通じて東南アジア地域をはじめ広い範囲へ輸出され、日本にももたらされました。こうしたやきものの一部は、茶の湯において茶碗や花入、香合として取り上げられ、ベトナムの陶器は「安南」、タイの陶器は「宋胡録」とよばれ親しまれてきました。同じように、インドネシアの染織品のなかにも、茶の湯の道具を包む袋として取り入れられたものがありました。陶芸や染織といった分野に限って見ても、東南アジアの工芸は、わが国の文化の中に深く息づいているといえるでしょう。

こうした東南アジア美術の魅力にふれながら、広大な地域を結んだ交易の広がりにも、想いを馳せていただければ幸いです。

休館日／7月21日（火）

開館時間／9：00～17：00（入館受付は16：30まで）

観覧料／大人 210円 高校生以下無料

◇学芸員による展示解説会

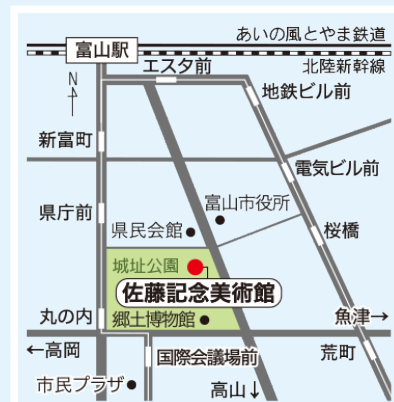
8/22（土）・9/19（土）いずれも14：00～

当館展示室にて ※申込不要、要観覧料

交通案内

富山駅下車 徒歩10分、市内電車「国際会議場前」下車 徒歩3分、
地鉄バス「城址公園前」下車 徒歩2分、富山空港より連絡バスで20分、
北陸自動車道富山I.C.より車で15分

※駐車場はありません。最寄りの駐車場は城址公園地下駐車場（有料）となります。



富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33
TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080